



宮司プレス 第百八十三号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和四年一月 二十日

◇宮司の柴田です。 松がとれまして、各家庭

や事業所にお鎮まりになり、一年間の福を授
(さず)けられた「歳神(としがみ)様は、お

帰りになられました。 今年は、十五日が土曜
日でありましたので、古式(こしき)に則(の

つと)り、しかも、暦(こよみ)どおりに、「ど
んど焼」の神事が斎行(さいこう)されました。

皆様方には、身も心も改(あらたま)り、清々
しい新年をお迎えの御事と、お慶び申し上げま

す。 本年も、何卒、宜しくお導きください。
令和四年、初めての宮司プレス第百八十三号の

発行です。 昨年は、第百六十四号から、十二
号遅れのスタートでしたが、十八号発行するこ

とかないまして、遅れの累積(るいせき)は七
つ減らして、五号となりました。 あくなき「キ

ヤッチアップ ミッション」は、なおも、継続
中であります。

◇さて、今年の干支(えと)は、前号第百八十
二号でも少しふれましたが、壬寅(みずのえと

ら)年です。 六十通りある干支の組み合わせ、
甲子(きのえね)から数えて三十九番目の干支

です。 干支は、万物の根本と考えられる五

行(ごこん)と十二支の組み合わせで成り立っ

ています。 その五行とは、水、火、土、木、
金(鉄のことです)の五つです。 十二支は、

子・丑・寅・卯・辰・巳・午・羊・申・酉・戌・
亥の十二です。 干支の「え」は、お兄さんの

ことで、逆に、「と」は、弟さんということにな
ります。 したがって、今年は、「水」の「お兄

さん」の支配される年回(としまわ)りという
ことになりますので、「大海」や「大河」を意味

しますし、ようするに、水の強いおはたらきに
よる年回りということになります。 すでに、

トンガ諸島の噴火による、「空振(くうしん)」
による津波も発生しました。 気候変動による

水害等の被害無きことを祈らざるをえません。
◇さて、壬寅は、「じんいん」と読みます。「壬」

は、「じん」と読み、「はらむ」を語源とし、新
しいものがはらまれる状態を表しています。

一本の軸に、縦糸をぐるぐる巻いていって、
ふくらんでいる姿が、「壬」です。 命が、「は

らみ、生まれて」、「ふくらんでいる」という意
味です。「寅」は、「いん」と読み、「うごく」

という意味で、草木の種子のなかで、新しい命

が産まれて動いている状態を表しています。

一説には、弓矢を今まさに放たんとしている姿
ともいわれています。「壬」も「寅」も、暗

がりから、明るい日差しが差し込む、「陰」が
「陽」に転じる様子を表しているといえるでし

よう。 本年の幕明けは、その干支を象徴(し
ようちよう)しているかのような、明るく清ら

かな初日を仰ぐことができました。 本年、長
引くコロナ禍で、暗い影に覆(おお)われた社

会に、明るい光が見えてくる、壬寅の干支、初
日の出に肖(あやか)りたいものです。 動物

では、「虎」が愛されています。 経済界で
は、「辰巳(たつみ) 天井、午(うま) 尻下が

り、未(ひつじ) 辛抱(しんぼう)、申酉(さ
るとり) 騒ぐ、戌(いぬ) 笑う、亥(い) 固

まる、子(ね)は繁栄、丑(うし) つまづく、
寅(とら) 千里を走り、卯(う) 跳ねる」と

いわれています。「虎(トラ)イ アンド エ
ラー」を繰り返しながらも、「虎は千里を走る」

に肖り、「虎(トラ)ブル」のないよう、何事に
も、じっくりと取組んでまいりたいものです。

じつは、この「寅」には、曲がったものを「の
ばす、正す」という意味もあるそうです。「朝

(あした)に祈り、夕べに感謝、夜にその日の
事を謙虚に振り返り、きつと明日から上手くや

つていこうと前向きな気持ちに切り替える、こ
の敬神生活の心がけが、この「寅」に込められ

ているといっても過言ではありません。

◇今年の書初めは、「祥寅（しょういん）」、「福壬（ふくじん）」、さらに、「立処皆真（りつしよみなしんなり）」と浄書（じようしよ）しました。「祥寅」は、前述（ぜんじゆつ）したように、様々なことに挑戦し、放たれた矢が、「祥、幸せ」に、つながりますようにという願いをこめて認めました。後で気づいたのですが、吉田松陰先生と同音（どうおん）です。「福壬」は、たくさんの幸福がうまれますようにと願ひ認めました。「祥寅」「福壬」、いづれも、私の造語（ぞうご）です。「立處皆真りつしよみなしんなり」は、臨濟宗（りんざいしゅう）臨濟録（りんざいろく）の言葉です。元寇（げんこう）という国の存亡（そんぼう）にかかわる危機的状況下（ききてきじょうきようか）のなか、時の執権（しつけん）、北条時宗（ほうじよう）ときむねは、国家鎮護（こっかちんご）を祈り、臨濟宗の本山である円覚寺（えんかくじ）を建立（こんりゆう）しました。元寇から、日本の危機を救ったのは、臨濟宗のお力によるところ大なのであります。今、与えられたことに一生懸命取組みなさい、きつと、すべて上手くいきますよという教えです。「処」の旧字体が、「虎」に似た字で、「處」なので、認めました。以上が、今年の書初めです。

◇コロナ禍は、秋以降、にわかには落ち着いてい

たのですが、最近、感染拡大の第六波が押し寄せています。近年出現した感染症の宿主（やどめし）は、多くが野生動物です。これまで、人類が「根絶（こんぜつ）」できたのは、「天然痘（てんねんとう）」だけだそうです。それも、天然痘が、人にしか感染しないという特徴が、根絶を可能にしたそうなのです。長崎大学の安田教授は、「新型コロナを十年で根絶するのは、ほぼ不可能だろう。」と見立てておられます。さらに、「ウイズコロナという考え方は、ウイルス研究者として敗北である。根絶が目標であるが、困難であれば、できるだけ人的・社会的被害を減らす必要がある。」とも述べられています。公衆衛生意識が高かった日本人の行動変容が、第五波収束（しゅうそく）の大きな要因にあげられています。今しばらくは、まだまだ、行動変容、生活変容が継続します。しかしながら、今年の干支の色紙の書初めに肖り、「立處皆真」、やるべきことを全力でつくし、様々な取組的（まと）を得て、「祥寅」、幸福がたくさんうまれる「福壬」となれますよう、心からお祈り申し上げます。

◇一月の祭典行事予定（報告も含む）

▼歳旦祭（本宮・田の首八幡宮・貴布禰神社 福浦金刀比羅宮）

*一月一日

▼干支の書初め *一月一日

▼元始祭 *一月三日

▼会社関係新年団体参拝

*一月四日～六日

▼七草 *一月七日

▼どんど焼（古神札正月飾焼納祭清祓式）

□本宮 *一月十五日

□田の首八幡宮 *一月十日

▼六連島八幡宮歳旦祭 *一月十一日

▼月次祭 *一月十五日

▼安倍元内閣総理大臣参拝 *一月十六日

▼養殖和布実行組合火入式 *一月十八日

▼花手水実施 *一月一日～十七日

▼楼門にお多福（たふく）門設置

▼朝粥会 *一月二十一日

※七日にお供えした七草にて「七草粥」を

調理

◇一月の宮司動静（報告も含む）

▼山口県神社庁関係

□五社会 *一月二十一日

□山口県神社庁下関支部総会

*一月二十五日

□山口県神社総代会役員会*一月二十七日

▼人権擁護委員・教誨師関係

□常設人権相談 *一月十九日

□集合教誨（女子） *一月二十四日

※美祢社会復帰促進センター